

たいよう新聞

471号

4月10日発行

～安定成長・100年企業をめざして～



中期経営計画発表

2025年3月14日開催の取締役会において、
第59期～第61期(2025年2月～2028年1月)を初回とする「中期経営計画」を策定いたしました。
当社が描くビジョンについて、皆様にお知らせいたします。

「安定成長・100年企業」に込められた思い

企業という字を分けて考えると、「業を企てる」となります。「企てる」は、良いことも悪いことも含まれる言葉ですが、事業がうまく進むよう、前もって計画を立てることを指します。企業が継続していくためには、社員・株主様・お客様・各種取引先など、多くの利害関係者と信頼のネットワークを継続していかなければなりません。そのためには、働く仲間を守っていくこと、株主様からは「太洋基

礎工業の株を買って良かった」と思っていただけのこと、お客様からは「良きパートナー」と言われるような企業へと年々深化していかなければなりません。

「企業は継続することが使命」と捉え、まずは安定成長しながら、100年続く会社を目指そうと考えた次第です。それゆえ、100年は通過点と考えております。

基本方針

たゆみない付加価値の提案・提供

基本戦略

人財の確保・育成（技術の伝承）と
更なるイノベーション

数値目標

	実績 58期 2025年1月期	中期目標 61期 2028年1月期
売上高	134.82 億円	150 億円 (+15.18 億円)
営業利益	1.68 億円	7.5 億円 (+5.82 億円)
ROE 自己資本利益率	2.63%	6.0% (+3.47%)
DOE 株主資本配当率	1.19%	1.5% (+0.31%)

非数値目標

- 建設業の新3K（給与・休暇・希望）を体感できる職場づくり
- 生産性の向上・環境負荷低減の新工法を研究開発し、社会に必要な職場づくり

「たゆみない付加価値の提案・提供」が指す意味

信頼のネットワークを築いていくためには、付加価値が必要です。当社は技術を最大の武器とする技術立社です。お客様から「困ったときには太洋基礎工業に相談しては？」と言われるような、信頼される会社作りを目指しております。

環境問題を含め、社会のニーズに沿った新技術の開発や技術を担う人財の育成、地域社会への貢献など、「太洋基礎工業という会社があって良かった」と言われるような会社作りが、付加価値を高めてゆくと考えております。

1 事業

① 中核事業（特殊土木・環境開発）の深耕

【施工管理能力】

安全 S・品質 Q・コスト C・納期 D・環境 E の管理手法徹底によるレベルアップ（質の向上）

【付加価値営業力】

川上段階への付加価値の提案・提供

【設備投資力と新技術力】

- 設備投資した機械の稼働率向上（都市再開発・地下工事）
- 再生可能エネルギー分野における新規設備投資

【産学連携による研究開発力】

不均質な自然地盤における

1. 切削効率向上 2. 竣工品質評価方法の迅速化等

【新分野への開拓力】

当社の強みである特殊土木技術を活かせる再生可能エネルギー分野

【カーボンニュートラル社会への事業貢献力】

- 当社の建設事業を通じた貢献
- 自社建物、保有地に太陽光パネルの設置・発電

② 建築事業と不動産開発への新規参入

【建築力】

55 期（2021 年 2 月）に支店組織から建築事業部に独立して以降、人員を増強しながら、売上高シェア 17% へと垂直的に成長

【リスクマネーを考慮した資金投資力】

昨年からの不動産開発事業にも新規参入

③ 海外展開...ベトナム実証工事の始動

【新市場への挑戦力】

JICA 中小企業海外展開支援事業の委託により、ベトナム国における「河川掘削泥土再利用システムの普及・実証・ビジネス化」を計画中。2025 年度中に現地の実証工事に着手する予定

【国内ベトナム人雇用等の海外展開準備力】

ベトナム国籍の従業員は 2013 年から在籍し、現在 4 名が働いている

2 経営基盤の強靱化

① 本社 4 本部制の定着

58 期（2024 年 2 月）から、本社コーポレート部門を 4 本部制へ改組。
更に成長し続けるために、「支店中心型」から「本社機構と支店のコラボ型」へ基盤整備する。
本社 4 本部のリード機能とサポート機能の両立を目指す、

- ・全社方針施策を立案・先導、けん引
- ・支店プロジェクト部門を横断する業務は効率的に集約支援

する組織体制を、早期に確立する

② 建築事業の本部化

建築事業の更なる飛躍を期して、59 期（2025 年 2 月）より「建築事業部」から「建築本部」へ組織増強

③ 人材育成計画

【人員数の確保（量）】

- 社員リファラル制度の導入
- 新卒採用
学校訪問の充実、ホームページ・たいよう新聞・SNS 等を使用した知名度の向上
企業説明会等への積極的参加、Web 等による求人媒体の積極的活用
- 中途採用
求人媒体の活用、経験豊富なベテランの採用

【人材育成計画（質）】

社外の Off・JT 研修も取り入れた人材育成

- 新入社員教育
- 若年層（入社 1～3 年）教育
- 階層別教育（経営層・部長級管理職・初級管理職）

④ IT 活用から DX 推進への発展

- 社外向け事業 DX や広報 DX
ターゲットを絞ったメディア対応など
- 社内向け業務 DX
全社共通データベース・ネットワークの構築
- 全社業務のライブラリー化、働き方改革、2024 年の残業削減事務対応

3 ガバナンスの充実

① 58 期（2024 年 4 月）から、監査等委員設置会社へ移行

取締役監査等委員、会計監査人と内部統制推進室が三位一体となって連携強化

② 取締役会の任意諮問機関である「指名・報酬委員会」を新設

取締役の報酬決定プロセスの透明性・客観性アップを図る

③ 取締役会・監査等委員会の開催回数を、それぞれ年 12 回に増加

タイムリーかつスピーディーな意思決定を目指す

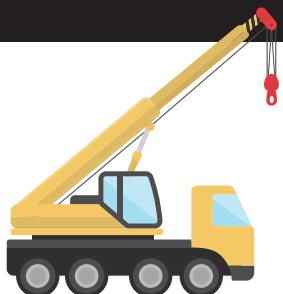
最前線レポート

令和6年度基幹管路耐震化事業 送水管布設工事及び老朽管布設替工事

太洋基礎工業が担当したさまざまな現場を紹介するこの企画。今回は、長野県飯田市で行われた水道管の作り替え工事です。厳しい工期の中で3つの作業を終えるためには、どのような工夫があったのでしょうか？

現場概要

施工期間	2024年11月5日～2025年2月12日
場 所	長野県飯田市今宮町
発 注 者	飯田市水道局 様
元 請	北沢建設株式会社 様
一次下請	太洋基礎工業株式会社
協力会社	6～7社
現場体制	太洋基礎工業株式会社1名 他24名
施工目的	老朽化した水道管の作り替え工事



長野支店 工事部

0さん



現場の特徴

推進工法のための一連の工事をまとめて行う

60年近く使用されている水道管の老朽化に伴い、今回はその一部、約25m分の作り替え工事を担当しました。川の下に水道管を作るため、薬液注入工、立坑築造工、推進工を一連の流れで行ったことが主な特徴です。高速道路のすぐ脇にあるため、道具にかけるシートが飛ばないようにネットをかけたり、石や粉塵が飛ばないように丁寧に掘り進めたりと、とても気を遣わなければならない現場でした。

苦労した点と乗り越え方

無駄のない段取りで時間を短縮

工期にあまり余裕がなく、効率よく時間短縮を図るため、段取りを組むのに苦労しました。モグラのような機械で地面を掘り進める推進工法では、まず穴を掘りやすくするための薬を地面に入れ、機械を入れるための「発進立坑」と取り出すための「到達立坑」を作る必要があります。次の業者を入れるタイミングや材料を用意するタイミングを読み、それらのステップがスムーズに進むよう工夫していました。



推進工の様子

現場を振り返って

皆さんの支えがあってやり切れた

サポートなしで自分1人で見える現場は、今回が2件目で、出張では初めてでした。会社の方へ直接現場を見ながらの相談ができない難しい状況ではありましたが、協力会社の皆さんがベテランの精鋭揃いでいらっしゃるからこそ、乗り越えられたと思っています。とてもいい経験になりました。



薬液注入工の様子

印象深かった出来事

山奥だったため、猿の大群がやって来ました。20匹ほどの猿たちに見守られ、作業をした思い出があります(笑)

KEEP OUT

KEEP OUT

KEEP OUT

相手の立場で物事を考えれば、 作業はスムーズに進む

建築業界に勤めて約42年。現場監督という仕事に長く従事してきましたが、改めて人との付き合い方の大切さに気づかされています。建築現場は人対人。高圧的な物言いをすれば、もちろん相手も反発。職人さんや関わる人たちの立場になって物事を考え、相談に乗る。そうすることで、信頼関係を築くことができます。現場に呼ぶと「Yさんのところだったら行くよ」と言っていただけることもあり、非常に嬉しく思っています。

「仕事は楽しく」をモットーに

現場監督の長い歴史の中で、自分のモチベーションを保てなかった辛い時期もありましたが、「楽しく仕事をする」をモットーに、毎日の業務に励んでいます。現場は、様々な人たちの協力を得て進めていくもの。皆が気持ちよく仕事ができる環境づくりをすることが重要です。また、現場の整理や清掃など、職人さんたちが望んでいることを前もって終わらせておくことで、現場での作業がスムーズになり、事故防止にも繋がります。



執行役員
建築本部 部長 Yさん



効率よく進めるためのスピード術！

「やることは大量にある！ だけど時間がない！」

日常、業務を進めている中で、このようなタイムリミットに直面する機会はよくあることかと思います。そこで、今回は時間がないときでも、たまっている仕事をスピーディーに進める仕事術をご紹介します。仕事というのは不思議なもので、仕事ができるようになればなるほど、その量は増えていきます。よりいっそうのレベルアップを図るためにも、スピード術を身につけましょう！

スピード術

1

優先順位を 先につけるべし！

時間が限られた状態で仕事をスピーディーに進めるには、優先順位を明確にすることが大切です。緊急性と重要度で仕事を分類し、緊急性が高くかつ重要度も高いものから着手しましょう。思いつままに仕事を進めっていると、どうしても非効率になってしまいます。

スピード術

2

迷う時間を 持つべからず！

「この仕事、どうやって進めようか？」
「AとB、どちらにしよう……」悩んでいるその時間こそ、スピードを鈍らせる元凶です。現場で起きている多くの問題は、上司や先輩が過去にくぐり抜けてきたものはず。悩むヒマがあったら、すぐさま周囲に相談してみましょう。迷う時間を削減できるだけでなく、ミスジャッジも抑止できれば一石二鳥です。

スピード術

3

時には猫の手も 借りる！

最善を尽くしたとしても、それでも時間が足りないケースはあるものです。その場合は、業務の中で、自分以外でもできることを切り分け、同僚や、後輩、時に上司に手助けを懇願しましょう。「すべて自分の手で進めない気が済まない」というのは、業務効率を悪化させてしまいます。無理をしてオーバーヒートする前に、周囲の手を借りましょう。

一人ひとりの業務スピードが上がり、生産性が向上することで、充実した毎日をご過ごすことができるようになります。今回紹介した中で、役に立ちそうな仕事術があれば、ぜひ取り組んでみてください！

